

音 ONGAKU

～ 音 で 笑 顔 に ～

先月の19日、部分月食の月を見ていたら、近くで2匹のコオロギが密かに鳴いていました。見ていた満月をより味わいのある姿に感じることができました。今年の年末の賑わいはどうなるでしょうか。感染症の完全収束までは、心穏やかに周囲の音を感じたり、手作り楽器の音を楽しんだりしましょうか。

【活動報告】

「みんなで楽しむ！自由に奏でるピアノ連弾体験」

8月13日（金） アートはるみ（東京都中央区）

<自由連弾って？>

自由に奏でるピアノ連弾＝自由連弾は、参加者が自由気ままに鍵盤を叩いて出す音に合わせて講師が即興的に伴奏を付け、二人の奏でる音の重なりを楽しむという池田理事長オリジナルの連弾手法です。当日はコロナ禍の影響もあって3家族だけの参加でしたが、それでも予定時間を大幅にオーバーしてしまう盛り上がりを見せました。通常だとお子さん達の自由連弾演奏だけで時間一杯になってしまうのですが、今回は参加人数が少ないこともあって理事長が「自由連弾は本当の自由な表現を体感出来る経験なんですよ」というお話をし、それに親御さんが大いに反応されたからなのです。



<[自由な表現]は難しい？>

ピアノ連弾のワークショップなのに、ピアノに近づこうとすらしらないお子さん。すると親御さんはお子さんをピアノ椅子に座るように促し、更には手を取って鍵盤を押させようとされます。そこで理事長が「まず大人がやってみましょう！」と声を掛けます。親御さんは「いいえ私はピアノなんか弾いたこともないので(汗)」と緊張顔に。「何でも良いのですよ自由に鍵盤を叩けば」と理事長。ところが、そう言われて「ハイそうですか」と言ってお出し始める方はいらっしません。そこで「この鍵盤一つだけを叩き続けて下さい」と、出す音を制限すると「それなら出来ます！」と皆さんホッと緊張を解かれて鍵盤を叩き始めます。「自由と言われると緊張し、制限されると楽に演奏出来るのは何故でしょう？」等というお話をしながらたった一つの音を出し続けている親御さんですが、理事長の巧みな伴奏につられて次第に緊張していた心が解放され、一つの音の中に微妙なニュアンスで音色やリズムの変化が生まれて音の重なりを心地よく感じられるようになって行く様子が見られます。



<大切なのは親御さんの心の解放>

するとそれを見ていたお子さんがいつの間にか親御さんの脇に来て、一緒に鍵盤を叩き出したのです。心が解放され自らの表現を楽しめるようになっている親御さんの状態は、いつでもお子さんに安心と安らぎの良い影響を与えます。だからお子さんは促されずとも連弾に参加してくれたのです。“我が子にこうあってほしい”と願う親の気持は時として“今はその気持ちに答えられない”というお子さんとの間に葛藤を生んでしまうことがあるのですが、このように自由連弾を通して心を解放することで、親子揃って心地よい時間をも

つことが出来るようになるのです。是非皆様にも一度体験して頂きたいです！

※自由連弾の動画はインターネット検索[池田邦太郎 音を表現する天才たち]や[ピアノ歴0年だけど音楽の先生にピアノセッションを挑んでみた]などでもご覧になれます。～ちなみに、[ピアノ歴0年だけど音楽の先生にピアノセッションを挑んでみた]の連弾相手は、池田理事長が大学で教鞭を執っていた頃の教え子です～

「手作り楽器と音を楽しむ ONGAKU 会」

8月7日（土）13：30～15：00 武蔵村山市民会館

今回の活動は、井上理事と中澤監事のご尽力により、武蔵村山市音楽文化振興協会主催のイベントとして実現しました。内容はマリンカン作り。本来は親子で参加していただき、「親として子どもをどの様に見るか」という事を伝えたい活動でもあったのですが、参加希望者多数のため、子どもだけの参加が多い結果となりました。



マリンカンは誕生以来常に進化を遂げており、今回はプチルテープを巻いてその上にアルミテープを巻いて防水する方法で作りました。この方法により防水効果をかなり高いものにすることができます。更に缶全体に銀色の紙を巻き、その表面に飾り付けを工夫するようにしました。飾り付け用には、様々な色の折り紙シールの他、毛糸や紐などの巻き付けて装飾できる素材も準備しました。井上理事が指導している武蔵村山少年少女合唱団から3名の団員も参加しており、参加者は次々に自分の思いのままをマリンカンの飾りとして作り上げていきました。勿論、音を楽しむわけですから、マリンカンならではの音を色々な聴き方で楽しみました。



【インタビュー特集③：野村誠さん その1】

インタビュアー：横川雅之

同席者：池田理事長・斉藤副理事長

野村さんは、1968年名古屋生まれの作曲家・演奏家。京都大学在学中に自身のバンドがCDデビュー。渡英し、各地でワークショップやコンサートを行いました。その後世界各地に招聘されるようになり、NHK「あいのて」の番組監修と出演が反響を呼びました。第1回アサヒビール芸術賞受賞。著書・共著は多数。

【作曲家の道へは偶然？必然？】

横川「どんなきっかけで作曲を始めたのでしょうか？」

野村「8歳の時に病気ですっと家にいて、ピアノのレッスンにも行けず娯楽もないので一人で作曲することが続きました。友達と遊べていたら違う人生だったかも知れません。」

横川「でも、それで終わってしまう人もいますよね？」

野村「病後、ヤマハのグループレッスンに行ったんですが、自分一人だけの日があって、先生が持っていたレコード（バルトークの曲）を聴いたんです。これがすごく面白くて、こんな音楽があるんだと思って。それで作曲家になろうと思いました。バルトークの話や興味があることを話してくれて、めちゃくちゃ面白かった！先生は全然何も教



えなす、時間を潰してただけですけど…。事故のような出会いでした。尊敬する人がバルトークになり、すごい音楽を聴いた！あれやろう！と思いました。」

横川「音楽大学には行かなかったのはどうしてですか？」

野村「その先生の先生は戸島先生と言う作曲家で、僕は音大の作曲科に入りたかったので訪ねました。僕の作品を見ても曲についてはコメントしてもらえず、謎の言葉を言ったんです。『これは作品というよりは君の演奏だね。』もう1つは『作曲科の学生で先生に【ここ直せ】って言われたところを直しているのは一流になれない。』、それで弟子にしてくださいとは言えなかった。それで「あ、僕は一生習えないかも…弟子入りしてはいけないんだ」と思いました。それは結構な衝撃で、どうしていいか道が全く無くなって、本当に戸惑いました。」

結局、野村さんは大学では数学科に入りました。自分で道を開かねばならず、コンサートに行つて「この曲僕が書いたんですが…」と言ったり「ピアノが無いなら弾きに来ていいよ」と言われたり。下宿の六畳一間には楽器はありませんでした。

横川「頭だけで曲を書いたのでしょうか？」

野村「そうですね。ですから頭でっかちになっていました。大学には弾ける人がいないのに書いても意味が無いと思いました。大学3年の時、ジョン・ケージが京都賞を取ったのでジョン・ケージの音楽を演奏するコンサートをやりました。実際にバケツを叩くでも何でもやってみよう。実際に音を出す現場があるというのは、机上で作るのとは全く違うので、面白かった。」

集まってバケツを叩いたりするだけでも、それで音になって出来上がっていく。こうして野村さんは、もう少し現場で体を動かしながら音楽を作っていくことをした方がいいと思うようになりました。やがてイギリスに行くことになりました。

【イギリスへ、そして池田理事長との出会い】

横川「イギリスではどんな体験をしたのですか？」

野村「小学校にアーティストが行っている様子をいっぱい見ましたが、うまくいっている部分やそうでない所を色々見て、日本の音楽教育の人にこれを伝えた方がいいんじゃないかなと思いました。自分が体験したことはレアなことだと思って。帰国してからその体験を書いたので、本を出したいと思って原稿を音楽之友社に問い合わせたんです。急に本は出せないけど教育音楽という雑誌に連載しないかと言われて、連載を始めました。」

池田「なるほど！僕は既にその本に連載をしていて、隣のページが野村さんの連載だった。」

横川「ここで野村さんと池田さんが繋がったわけですね！実際の出会いは？」

野村「連載とは別に、鍵盤ハーモニカの特集記事を書いて欲しいと言われましたが、『鍵盤ハーモニカについては書けますが子どもとどういう活動ができるのかについては分からない』と言ったら、すごくいい先生がいるので会わせたいと言われて池田さんと会うことになりました。」

池田「初めて会ったときの事を覚えてますよ！変な兄ちゃんが来たなあと…」

野村「池田さんの連合音楽会のCDをもらって聴きました。これ面白いなあと思いました。知り合いの音楽家にも聴かせて、『これ面白いね！この音何の音？この人に会いたいね。』などと言いつつ。」

数年のブランクの後、2000年頃に名古屋のイベントに池田さん呼びました。その後 海外のイベントにも池田さんを度々招待して2人の交流が続いていきました。

【曲を演奏する、聴く・・・そこには人が介在する】

野村「作曲家が譜面を書くところまでは、人は全く介在していません。でも演奏するのは人で、聴くのも人で、どういう風に演奏するかで全然違ってしまいます。物理的な音響現象をどのように捉えて音楽をつくるかということと、人がどんな風に演奏するんだろうと考えて音楽をつくる時に、僕は『人』のことを考えます。それは、大学の時に周りにプロ的な音楽家が全くいなかったという事がとても大きく影響しています。訓練を受けた音楽家だから面白い音楽が立ち



上がってくるということもありますが、そうじゃない状態でいろいろな音楽が立ち上がってくるという体験もしました。時にはすごくつまなくなる事もある訳です。人がどう関わっていくと音楽がつまなくなったり、生き生きとしたりするんだらうってということにすごく興味がありますね。人と関わってやっていると、そこで人が代わったり何か変化しているのを見た時に、『教育ってこういう風であつたらいいんじゃないかな』を思うことはいろいろあるんです。

池田「限りなく教育者に近いアーティストだね。やっていることは教育だもの。」

横川「現代作曲家の人は自分の書きたいことを緻密に書いているけど、そこから先のことも考えたいということですね。そこを考えている所が野村さんたる所ですね。」

野村「全然違うんですよ、つまんなそうに演奏されるのと楽しそうに演奏されるのでは。全然違うじゃないですか。じゃあ何でつまなくなるんだらうとか、楽しそうになるんだらうかっていうのは、すごく気持ちが入って音を出しているのと全くやる気が無くて音を出しているのでは、全然違うはずです。」

・・・続く

野村さんのインタビューは、まだまだ続きます。この後も興味深いお話が展開しますが、次号へと続きますので、どうぞお楽しみに！

【今後の活動予定など】

～ご参加などについては、本会事務局までご連絡ください～

★江古田の杜

・12/26(日)、1/16(日)、2/20(日)、3/20(日)

①おひさまリトミック 11:00～11:40(2月は無し)

②クニボン&アッキーの“音の楽校” 13:00～13:40

・12/9(木)、1/13(木)、2/10(木)、3/10(木)

音遊び 11:00～11:40

★その他の予定については今後決定するものもあります。ホームページをご覧ください。

■賛助会員を募集しています！

本会の活動は殆ど全て会員の皆様の会費で賄われています。本会の事業の趣旨に賛同し、ご支援していただける方は、是非賛助会員になってください。現会員の方は、お知り合いの方などにお声をおかけください。賛助会員になってくださる方(または誘ってくださった会員の方)は、まず下記の事務局までご連絡ください。

賛助会費は、年間3000円です。よろしくお願い致します。

< 振 込 先 >

① ◆三菱UFJ銀行 向島支店 ◆口座番号：普通 0088065 ◆名義名：エヌピーオーウハウジンオトヲタノシムオンガクノカイ
② ◆ゆうちょ銀行 ◆口座記号：10090 口座番号：18396671 ◆加入者名：トクヒ)オトヲタノシムオンガクノカイ

NPO法人 「音」を「楽」しむONGAKUの会

〒131-0032 東京都墨田区東向島2-34-12 サニーフラット202号

PHONE & FAX : 03-3610-2292

E-mail otoiwase@oto.or.jp

URL : <http://www.oto.or.jp/>

facebook : <https://www.facebook.com/ototano/>